

研究計画書

ゼミ名	森ゼミⅡ	チーム名	森ツーリスト
タイトル	和食ツーリズム		
テーマ群	e) 産業・企業		
メンバー	辻本裕・林弘樹・井崎雄介・竹井和香奈・宮本沙耶・植村侑子・濱田郁悦		
研究計画内容	<p>[研究の背景]</p> <p>21 世紀最大のリーディング産業と言われる観光業。今や世界の観光産業は、全世界の GDP の約 9%(国連世界観光機関 2014 年)を占め、全世界の国際観光客到着数は 1950 年にはわずか 2500 万人だったのに対して 2013 年には 10 億人を越え、現在もすさまじい勢いで膨れ上がっている。日本では 2020 年までに訪日外国人観光客数を 2000 万人まで伸ばすという目標を掲げている。現在も観光客数は純増しており、観光大国になったと国内では認知されているが、世界には自国の人口を遥かに超える観光客を呼び込む国も存在しており、日本はまだまだ観光発展途上国と言えるのである。</p> <p>日本には、「食事」「自然」「文化」「気候」という観光立国になるための 4 つの条件が揃っており、観光資源が豊かな国である。2013 年には「和食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録され、外国人観光客の渡航目的に「日本食を食べること」が常に上位に入るほど世界的に認知されている。一方で、その他の魅力を目的に渡航する外国人は全体でも数が非常に少ない。</p> <p>[研究目的・内容]</p> <p>そこで私たちは「和食」と共に伝えたい魅力の一つとして「文化」を挙げ、実際のところ外国人にどれほど日本人の文化が浸透しているのか、どれくらい評価されているのか、そして、それらの魅力を推し進める価値がどれくらいあるのかどうか、ということをゼミで学んできた手法(仮想評価法 CVM)を用いて分析する。その結果として、外国人に対してどのようにアプローチし、魅力を PR すべきかを導き出し、観光地の魅力向上のため観光に文化を融合させた観光促進を提案したい。</p> <p>[期待される成果]</p> <p>世界中が注目する東京五輪によって観光客が増加すると期待されているが、継続して日本に渡航してもらうことができるかが、少子高齢化が進む日本のさらなる経済発展に繋がる大きな課題である。今回の研究を一つのきっかけとして、日本人が“観光”という産業に対してより真剣に向き合うことができればと思う。</p>		